

16  
金曜日  
聖徒伝 100

# 「罪の結末」

サムエル記第二 17~18章

アブサロムの死

# アウトライン

0. イントロダクション

I. アヒトフェル vs フシャイ 17章

聖書朗読：詩篇55篇

II. アブサロムの死 18章

III. まとめと適用

罪と死と神の裁きを心にとめよう

見上げるべきはただ主の御顔





【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

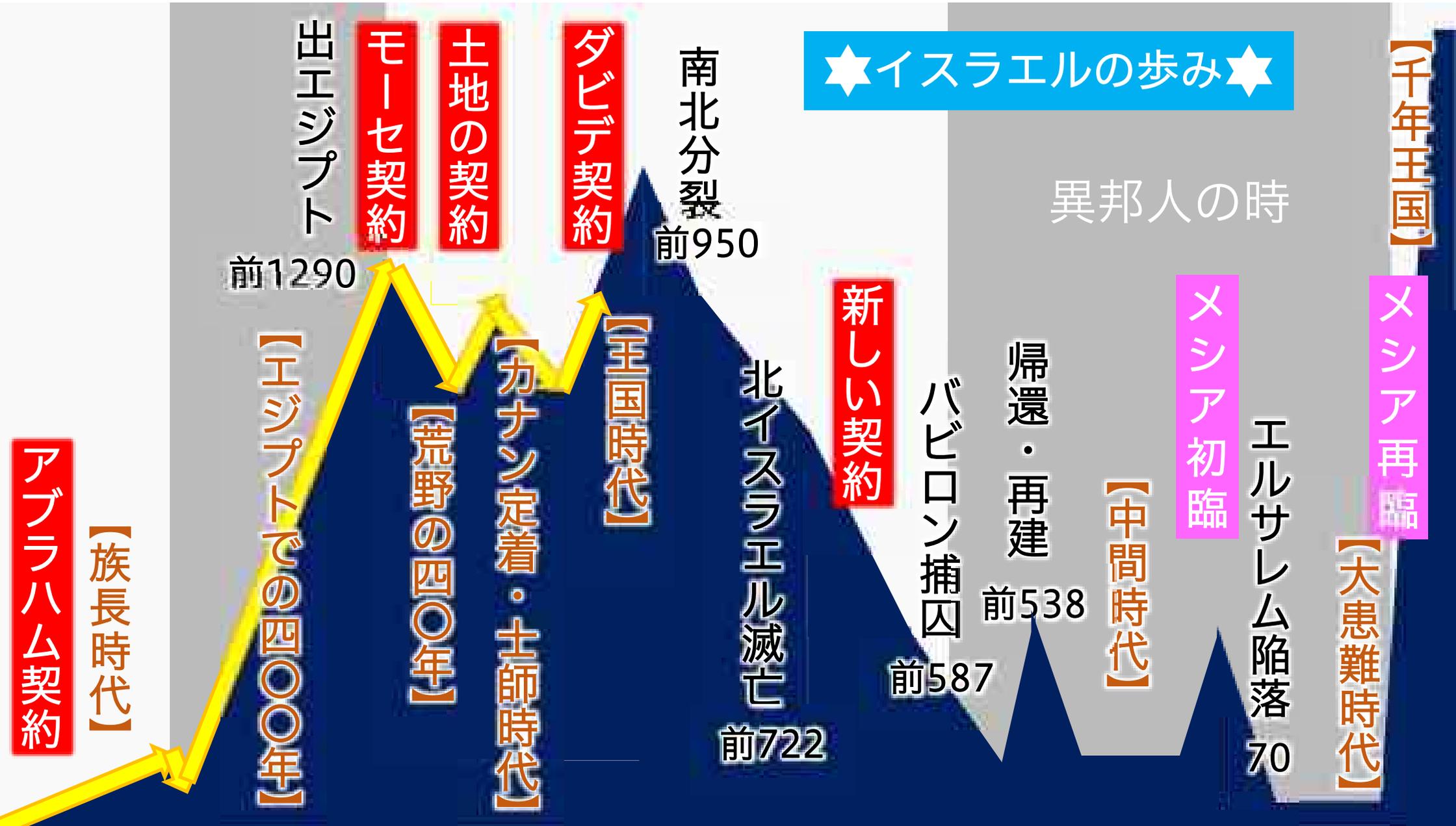
どの時代も  
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



## サムエル記 第二

## ダビデ王の治世の正と負

ユダの王	1:1~27	サウルとヨナタンの死
	2:1~4:12	ユダの王に即位
イスラエルの王	5:1~25	エルサレム遷都 全イスラエルの王に
	6:1~25	神の箱が都に上る
	7:1~29	<b>ダビデ契約</b> の締結
	8:1~9:11	ダビデの治世 領土の拡大・義と憐れみ
失墜する 王の権威	10:1~12:31	アンモンとの戦い ダビデの過ちと悔い改め
	13:1~14:33	悪化する家族問題
	15:1~18:32	アブサロムの謀反 ダビデの都落ち
	19:1~20:26	ダビデの帰還
追記	21:1~22	サウルの氏族の末路・戦士ダビデの引退
	22:1~51	ダビデの歌
	23:1~39	ダビデの遺言 勇士たちの記録
	24:1~25	人口調査 ダビデの罪と罰

## 【ダビデの足取り】

■ダビデ王は、エルサレムを都とし神の箱を担ぎ上げた。神は、ダビデの王家を永遠に守り導き、子孫から、メシアが誕生することを告げられた。→**ダビデ契約**

■周辺国の平定間近のある時、ダビデは、バテ・シェバと姦淫を犯し、夫ウリヤを戦死に見せかけ殺害した。

■主が告げた通り、以降、ダビデの家には争いが絶えず、子どもたちの間で、強姦、殺人の悲劇が起こった。三男**アブサロム**は、ダビデの王権を奪い、父の側女と寝た。ダビデは都落ちし、敵の呪いを甘んじて受けた。





# Ⅰ. アヒトフェル vs フシャイ

サムエルⅡ 17章



## 二人の助言者の対立

■ **アヒトフェル** …ダビデの助言者で高く評価されていたが、アブサロムの謀反に加担。

「当時、アヒトフェルの進言する助言は人が神のことばを伺って得ることばのようであった。アヒトフェルの助言はすべて、ダビデにもアブサロムにもそのように思われた。サムⅡ 16:23」



アヒトフェル



■ **フシャイ** …ダビデが信頼を寄せる老齢の預言者。ダビデに依頼され、あえて都に残り、アブサロムにつくふりをする。



フシャイ

## 【アヒトフェルの助言】 Ⅱサムエル17:1~4

アヒトフェルはアブサロムに言った。

「私に一万二千人を選ばせてください。私は**今夜すぐに**、ダビデの後を追います。

私は、彼が疲れて気力を失っている間に、彼を襲い、彼を震え上がらせませす。彼と一緒にいるすべての民は逃げるでしょう。私は王だけを打ち殺します。

私は兵全員をあなたのもとに連れ戻します。すべての者が帰って来るとき、民はみな、穏やかになるでしょう。あなたが求めているのは、ただ一人の人だけですから。」

このことばは、アブサロムとイスラエルの全長老の気に入るところとなった。

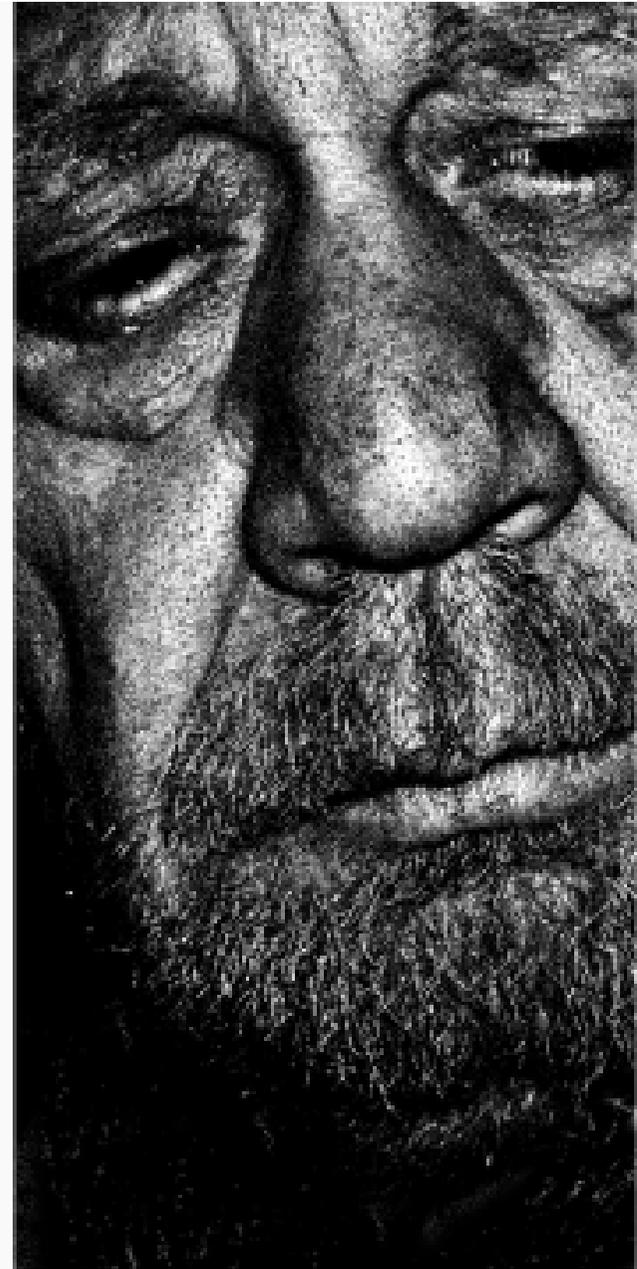


## 【フシャイの助言】 II サムエル17:5~7

アブサロムは言った。「アルキ人フシャイを呼び出し、彼の言うことも聞いてみよう。」

フシャイがアブサロムのところに来ると、アブサロムは彼に言った。「アヒトフェルはこのように語ったが、われわれは彼のことばに従ってよいものだろうか。もしそうでなければ、あなたが語りなさい。」

フシャイはアブサロムに言った。「このたびアヒトフェルの進言した助言は良くありません。」

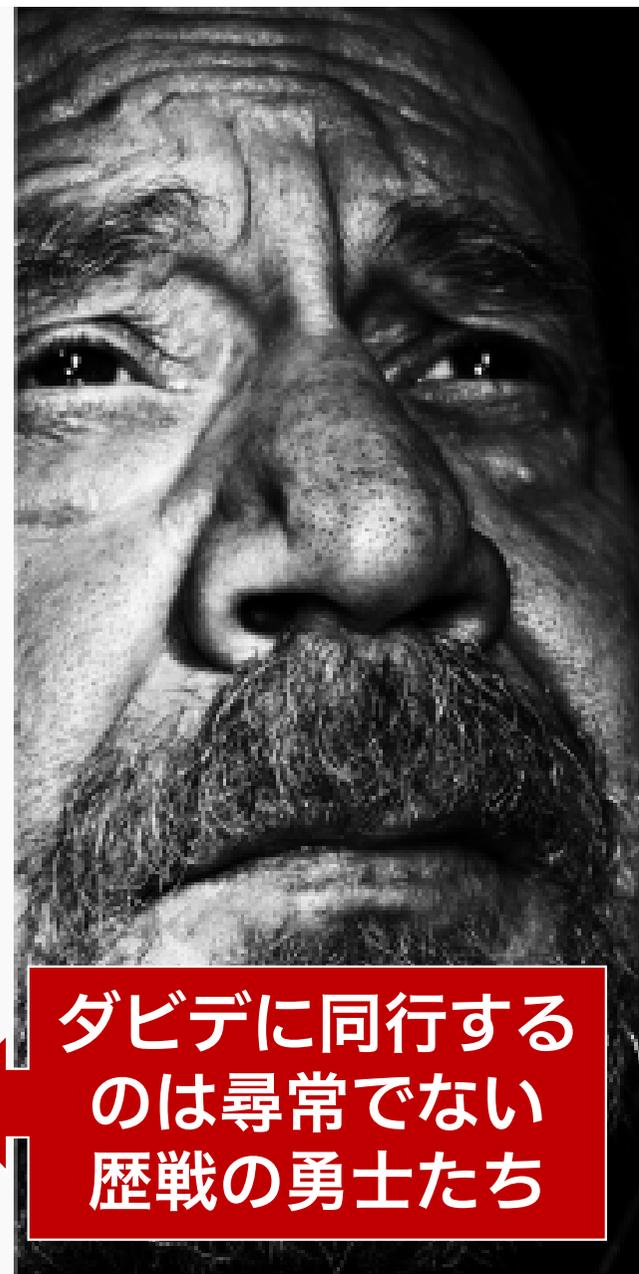


## 【フシャイの助言】 II サムエル17:8~10

フシャイは言った。「あなたは父上とその部下が戦士であることをご存じです。彼らは、野で子を奪われた雌熊のように気が荒くなっています。また、あなたの父上は戦いに慣れた方ですから、兵たちと一緒に夜を過ごさないでしょう。

きっと今、洞穴かどこか、そんな場所に隠れているに違いありません。もし、兵たちのある者が最初に倒れたら、それを聞く者は『アブサロムに従う兵たちのうちに、打たれた者が出た』と言うでしょう。

たとえ、獅子のような心を持つ力ある者でも、気がくじけます。全イスラエルは、あなたの父上が勇士であり、彼とともにいる者が力ある者であることをよく知っています。」



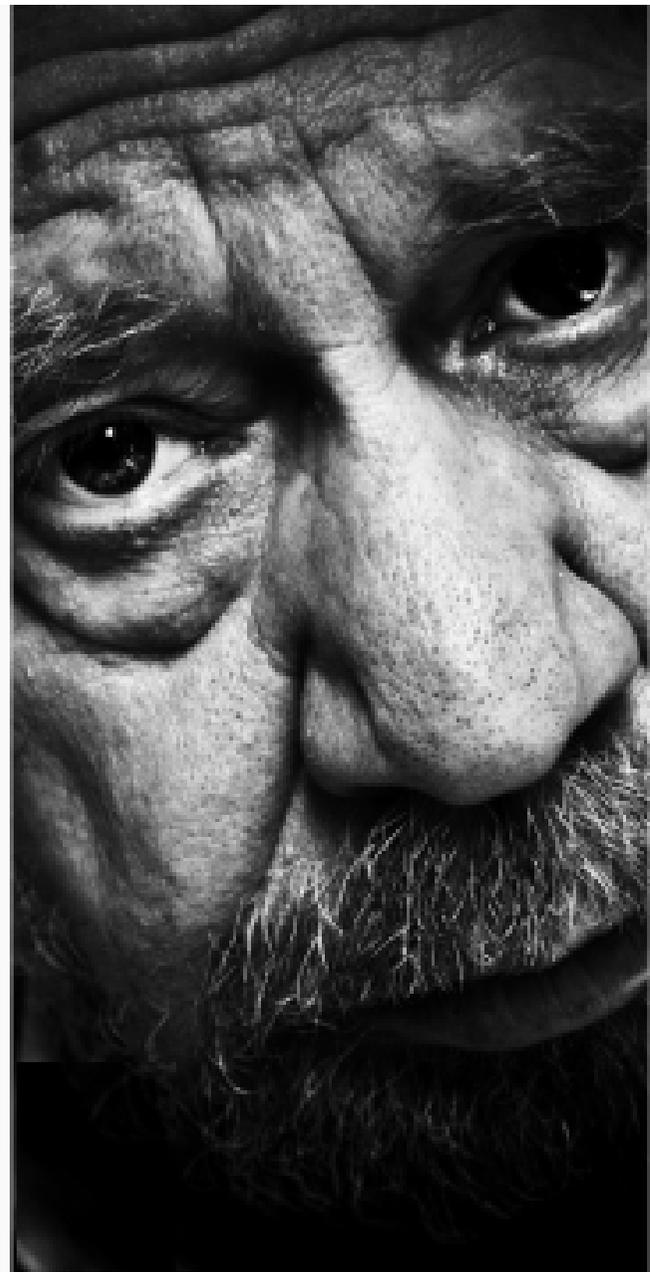
ダビデに同行するのは尋常でない  
歴戦の勇士たち

## 【フシャイの助言】 II サムエル 17:11~13

「私の助言はこうです。全イスラエルをダンからベエル・シェバに至るまで、海辺の砂のように数多くあなたのところに集めて、あなた自身が戦いに出られることです。

われわれは彼が見つかる場所に行って、そこで露が地面に降りるように彼を襲うのです。そうすれば、彼や、ともにいるすべての兵たちのうちには、一人も残る者はありません。

もし彼がどこかの町に入るなら、イスラエル中の者がその町に縄をかけ、その町を川まで引きずって行って、そこに一つの石ころも残らないようにしましょう。」



## 【フシャイの助言】 II サムエル17:14

アブサロムとイスラエルの人々はみな言った。  
「アルキ人フシャイの助言は、アヒトフェルの助言よりも良い。」

これは、【主】がアブサロムにわざわざをもたらそうとして、【主】がアヒトフェルのすぐれた助言を打ち破ろうと定めておられたからである。

- 戦略的に正しいのはアヒトフェルの助言。  
しかし、アブサロムの虚栄心をくすぐったフシャイの助言が採用された。



背後で働かれたのは  
主ご自身

## 【動くフシャイ】 II サムエル17:15~17

フシャイは祭司ツアドクとエブヤタルに言った。  
「アヒトフェルは、アブサロムとイスラエルの長老  
たちにこれこれの助言をしたが、私は、これこれの  
助言をした。今、急いで人を遣わして、ダビデに、  
『今夜は荒野の渡し場で夜を過ごしてはいけません。  
必ず、あちらへ渡って行かなければなりません。そ  
うでないと、王をはじめ、一緒にいる民全員にわざ  
わいが降りかかるでしょう』と告げなさい。」

ヨナタンとアヒマアツはエン・ロゲル(都の郊外)に  
とどまっていたが、一人の女奴隷が行って彼らに告  
げ、彼らがダビデ王に告げに行くようになっていた。  
これは、彼らが都に入るのを見られないようにする  
ためであった。



## 【二人を匿った女】 II サムエル17:18~20

ところが、ある若者が彼らを見て、アブサロムに告げた。彼ら二人は急いで去り、バフリムに住むある人の家に行った。その人の庭に井戸があったので、彼らはその中に降りた。

その人の妻は覆いを持って来て、井戸の口の上に広げ、その上に麦をまき散らしたので、だれにも知られなかった。

アブサロムの家来たちが、その女の家に来て言った。「アヒマアツとヨナタンはどこにいるのか。」女は彼らに言った。「あの人たちは、ここを通り過ぎて川の方へ行きました。」彼らは、捜したが見つけることができなかったので、エルサレムへ帰った。



ダビデの正統性  
ユダのルーツ  
ラハブが重なる

## 【ヨルダン川を渡る】 Ⅱ サムエル17:21～22

彼らが去った後、二人は井戸から上がって来て、ダビデ王に知らせに行った。彼らはダビデに言った。「さあ、急いで川を渡り始めてください。アヒトフェルがあなたがたに対して、これこれのことを進言したからです。」

ダビデと、ダビデのもとにいたすべての者たちは、ヨルダン川を渡り始めた。夜明けまでにヨルダン川を渡りきれなかった者は一人もいなかった。

■ヨルダン川は、東西を隔てる天然の堀。

無事、川を渡り、ダビデは難を逃れた。



## 【アヒトフェルの死】 II サムエル17:23

アヒトフェルは、自分の助言が実行されないのを見ると、ろばに鞍を置いて自分の町の家に戻り、家を整理して首をくくって死んだ。彼は彼の父の墓に葬られた。

■ 優秀すぎるがゆえの悲劇。

→ アブサロムが敗北し、反逆者として自分の命も取られることが見えていた？

■ アヒトフェルの助言は、戦略的には正論だが、何より重要な神の義は、まったく欠けていた。



## 【アブサロム軍の将アマサ】 Ⅱ サムエル17:24

ダビデがマハナイムに着いたとき、アブサロムは、彼とともにいるイスラエルのすべての人々とヨルダン川を渡った。

アブサロムは**アマサ\***をヨアブの代わりに軍団長に任命していた。**アマサ\***は、アスリエル人イテラという人の息子で、イテラは、ヨアブの母ツェルヤの妹ナハシュの娘アビガルと結婚していた。

\*アマサの母アビガルとヨアブの母ナハシュは姉妹。

➡ダビデ軍の将ヨアブと、

アブサロム軍の将アマサは、従兄弟!!



## 【ダビデの支援者たち】 II サムエル17:26～29

イスラエルとアブサロムはギルアデの地に陣を敷いた。

ダビデがマハナイムに来たとき、アンモン人でラバ出身のナハシュの息子**ショビ**と、ロ・デバル出身のアンミエルの息子**マキル**と、ロゲリム出身のギルアデ人**バルジライ**は、寝台、鉢、土器、小麦、大麦、小麦粉、炒り麦、そら豆、レンズ豆、炒り豆、蜂蜜、凝乳、羊、チーズを、ダビデと彼とともにいた民の食糧として持って来た。彼らが「民は荒野で飢えて疲れ、渴いています」と言ったからである。

逃亡先でも多くのダビデに支援者が





指揮者のために。弦楽器に合わせて。ダビデのマスキール。

**聖書朗読 詩篇55篇**

55:1 神よ私の祈りを耳に入れ

私の切なる願いに耳を閉ざさないでください。

55:2 私をみこころに留め 私に答えてください。

私は悲嘆に暮れ 泣き叫んでいます。

55:3 それは敵の叫びと悪者の迫害のためです。

彼らは私にわざわいを降りかからせ

怒って私を攻めたてています。

55:4 私の心は内にもだえ

死の恐怖が私を襲っています。



55:5 恐れと震えが私に起こり  
戦慄が私を包みました。

55:6 私は言いました。

「ああ私に鳩のように翼があったなら。  
飛び去って休むことができたなら。

55:7 ああどこか遠くへ逃れ去り  
荒野の中に宿りたい。

55:8 嵐と疾風を避けて 私の逃れ場に急ぎたい。」



55:9 主よ彼らの舌を混乱させ 分裂させてください。

私はこの都の中に暴虐と争いを見えています。

55:10 昼も夜も彼らは城壁の上を歩き回り

不法と害悪が都のただ中にあります。

55:11 破滅が都のただ中にあり

虐待と詐欺はその広場を離れません。



55:12 まことに私をそしっているのは敵ではない。

それなら私は忍ぶことができる。

私に向かって高ぶっているのは私を憎む者ではない。

それなら私は身を隠すことができる。

55:13 それはおまえ。

私の同輩 私の友 私の親友のおまえなのだ。



55:14 私たちはともに親しく交わり

にぎわいの中神の家に一緒に歩いて行ったのに。

55:15 死が彼らをつかめばよい。

彼らは生きてままだよみに下るがよい。

悪が彼らの住まいに 彼らのただ中にあるからだ。



55:16 私が神を呼ぶと【主】は私を救ってくださる。

55:17 夕べに朝にまた真昼に私は嘆きうめく。

すると主は私の声を聞いてくださる。

55:18 主は私のたましいを敵の挑戦から

平和のうちに贖い出してく下さる。

私と争う者が多いから。



55:19 神は聞き 彼らを苦しめられる。

昔から御座に着いておられる方は。

彼らは改めず神を恐れない。

55:20 彼は親しい者にまで手を伸ばし

自分の誓約を犯している。

55:21 その口はよどみなく語るが心には戦いがある。

そのことばは油よりも滑らかだが

それは抜き身の剣である。



55:22 あなたの重荷を【主】にゆだねよ。

主があなたを支えてくださる。主は決して正しい者が揺るがされるようにはなさない。

55:23 しかし 神よ

あなたは彼らを滅びの穴に落とされます。

人の血を流す者どもと欺く者どもは  
日数の半ばも生きられないでしょう。

しかし 私はあなたに拠り頼みます。





## II. アブサロムの死

サムエル記 II 18章

## 【ダビデ軍】 II サムエル18:1~2

ダビデは自分とともにいる兵を調べて、彼らの上に千人隊の長、百人隊の長を任命した。

ダビデは兵の三分の一を**ヨアブ**の指揮のもとに、三分の一をヨアブの兄弟である、ツェルヤの子**アビシャイ**の指揮のもとに、三分の一をガテ人**イタイ**の指揮のもとに配置した。王は兵たちに言った。「私自身も、あなたがたと一緒に出陣する。」

■安全圏に逃げ延びたダビデは、ただちに軍を組織し、反撃の体勢を整えた。

ダビデ軍



ダビデ王



将軍  
ヨアブ



隊長  
アビシャイ



隊長  
イタイ

## 【兵たちの嘆願】 II サムエル18:3～4

兵たちは言った。「王様が出陣してはいけません。私たちがどんなに逃げても、彼らは私たちのことは何とも思わないでしょう。私たちの半分が死んでも、彼らは私たちのことは心に留めないでしょう。しかし、今、あなたは私たちの一万人に当たります。今、あなたは町にいて私たちを助けてくださるほうがよいのです。」

王は彼らに言った。「あなたがたが良いと思うことを、私はしよう。」王は門のそばに立ち、兵はみな、百人、千人ごとに出て行った。



## 【ダビデの命令】 II サムエル18:5～6

王はヨアブ、アビシャイ、イタイに命じて言った。「私に免じて、若者**アブサロム**をゆるやかに扱ってくれ。」兵はみな、王が隊長たち全員に**アブサロム**の**こと**について命じているのを聞いていた。

兵たちはイスラエルに対抗するために戦場へ出て行った。戦いはエフライムの森で行われた。

■ 計画的に謀反を犯し、絶大な力を手に入れ、命を狙う敵を「若者」と呼び、憐れみ願うダビデ。

→ 甘すぎる認識が、現状をもたらした一因



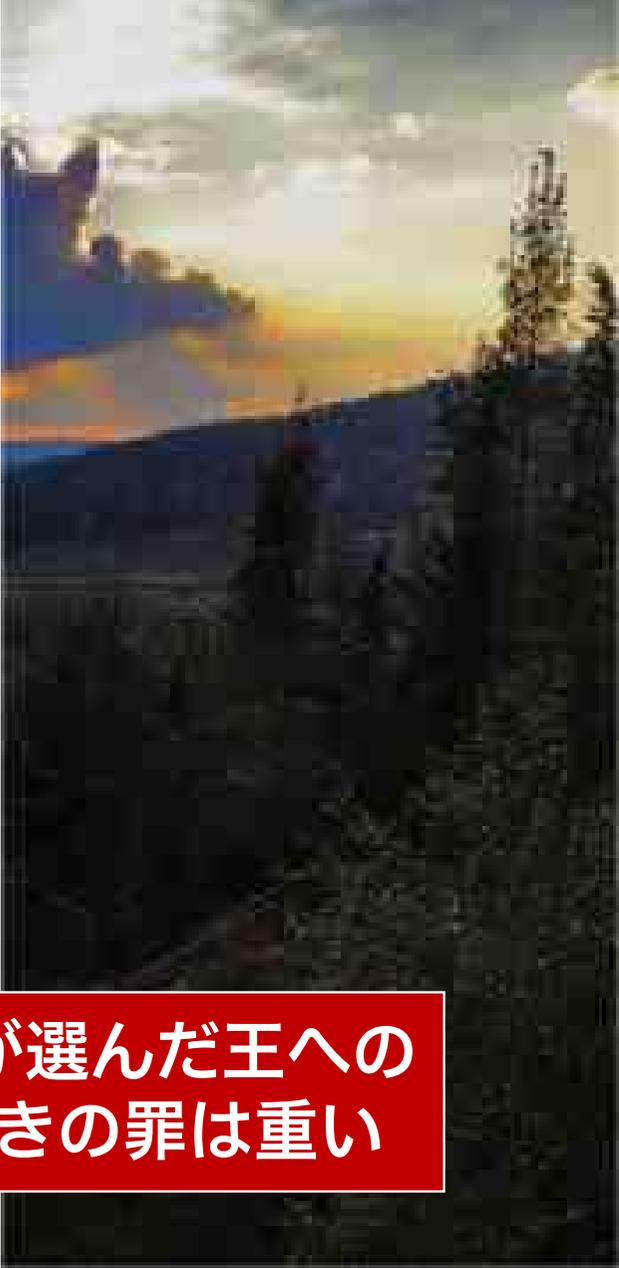
## 【戦いの結果】 Ⅱ サムエル18:7~8

イスラエルの兵たちは、そこでダビデの家来たちに打ち負かされ、その日その場所で多くの者が倒れ、その数は二万人となった。

戦いはこの地一帯に広がり、この日、剣よりも密林のほうが多くのを食べ尽くした\*。

\* 当時は密林があった。現在のエルサレム周辺の森の多くは、植林で再生されたもの。

■ 密林が食べ尽くしたとは、主ご自身が彼らを裁かれたということ。



神が選んだ王への  
背きの罪は重い

## 【裁かれたアブサロム】 II サムエル18:9~10

アブサロムはダビデの家来たちに出会った。アブサロムはらばに乗っていたが、らばが大きな檜の木の下を通った。すると、アブサロムの頭が檜の木に引っ掛かり\*、彼は宙づりになった。彼が乗っていたらばはそのまま行ってしまった。

\*アブサロムの髪が木に引っ掛かったのだろう

■自らの美しさ。特にその豊かな髪を誇っていたアブサロム。その髪が命取りとなった。

➡あまりに惨め。主が粉々に打ち砕かれた傲慢。



## 【ある男の通告】 II サムエル18:10~11

ある男がそれを見て、ヨアブに告げて言った。  
「今、アブサロムが櫛の木に引っ掛かっているのを見ました。」

ヨアブは、これを告げた男に言った。

「いったい、おまえはそれを見ていて、なぜその場で地に打ち落とさなかったのか。私はおまえに銀十枚と帯一本を与えたのに。」

■ 男は、ただならぬ出来事の背後に主の働きを見、神を畏れ、手を出さなかったのだろう。

➡ 対極なのは、男を咎めるヨアブの姿。



## 【男の反論】 Ⅱ サムエル18:12

その男はヨアブに言った。「たとえ、私の手に銀千枚をいただいても、王のご子息に手は下せません。王が私たちが聞いているところで、あなたとアビシャイとイタイに、『私のために若者アブサロムを守ってくれ』と言って、お命じになったからです。

もし、私が偽って彼のいのちに対して事を起こしていたとしても、王には何も隠すことはできません。あなたは素知らぬ顔をなさるでしょうか。」

■ 王を思い、将軍に楯突くほどの男の信仰。



忠実な信仰者に支えられていたダビデ

## 【ヨアブの非道】 II サムエル18:14~15

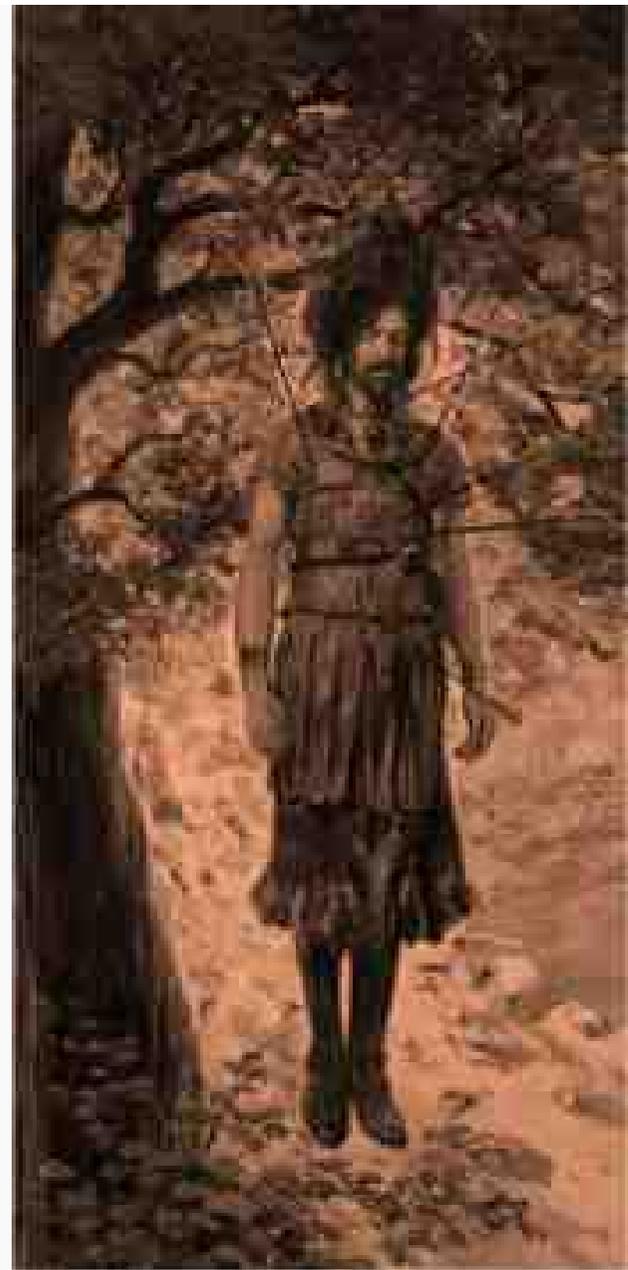
ヨアブは、「こうしておまえとぐずぐずしては  
いられない」と言って、手に**三本の槍を取り\***、  
まだ櫛の木の真ん中に引っ掛かったまま生きてい  
たアブサロムの心臓を突き通した。

ヨアブの道具持ちの十人の若者たちも、アブサ  
ロムを取り巻いて彼を打ち殺した。

**\*ヨアブの残忍さの現れ。**

**■**アブサロムは、大勢の兵に取り囲まれた中で、  
見せしめとして、残虐に殺された。

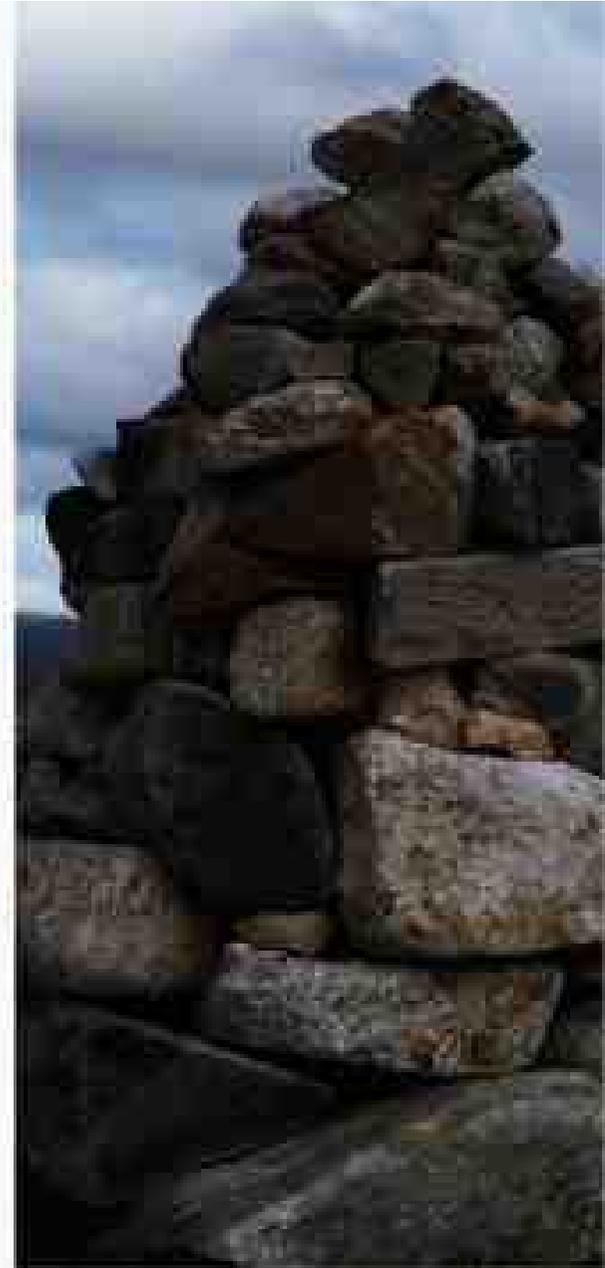
**➡聖書的には、木につるされた死は呪いの死。**



## 【戦いの終わり】 II サムエル18:16～17

ヨアブが角笛を吹き鳴らすと、兵たちはイスラエルを追うのをやめて帰って来た。ヨアブが兵たちを引き止めたからである。

彼らはアブサロムを取り降ろし、森の中の深い穴に投げ込み、その上に非常に大きな石塚を積み上げた。イスラエルはみな、それぞれ自分の天幕に逃げ帰っていた。



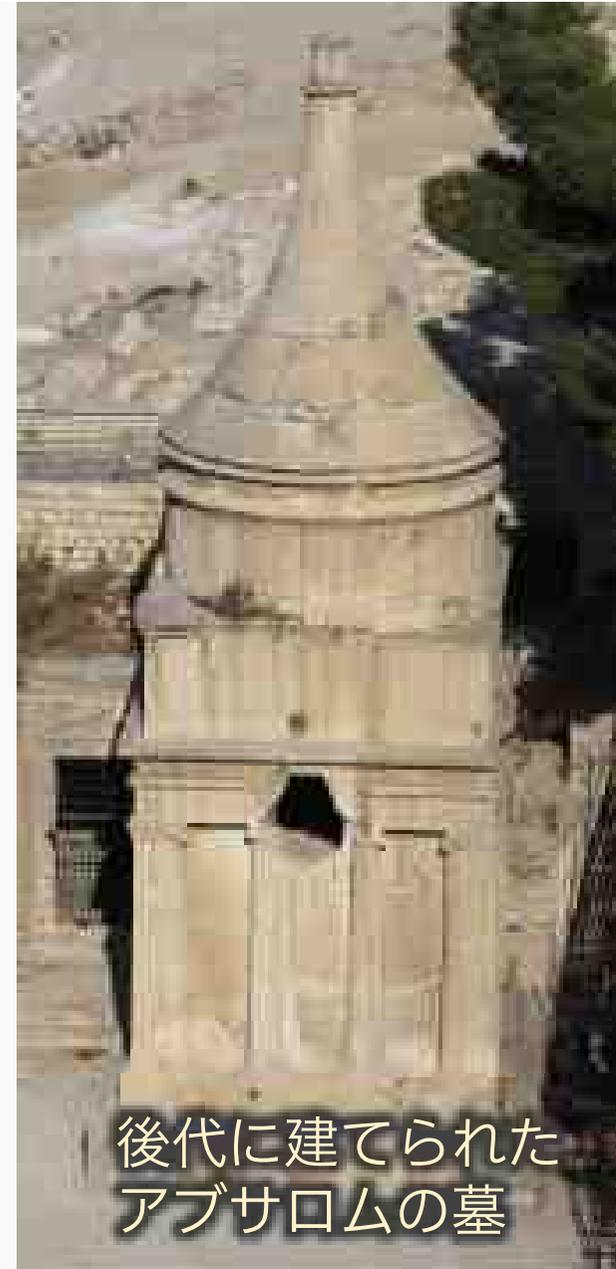
## 【アブサロムの祈念碑】 II サムエル18:18

アブサロムは生きていた間、王の谷に自分のために**一本の柱\***を立てていた。「私の名を覚えてくれる息子が私にはいないから」と言っていたからである。彼はその**柱に自分の名をつけていた**。それは、アブサロムの記念碑と呼ばれた。今日もそうである。

\*自分の名を残すための柱。自己顕示欲の象徴。

■妹を傷つけられ、息子たちと死別しながらなお復讐と野心と支配欲のためだけに生きた。

→救いようのないアブサロムの生涯の結末。



後代に建てられた  
アブサロムの墓

## 【アヒマアツの願い】 Ⅱ サムエル18:19～21

ツアドクの子アヒマアツは言った。「私は王のところへ走って行って、【主】が敵の手から王を救って、王のために正しいさばきをされたことを伝えたいのですが。」

ヨアブは彼に言った。「今日、伝えるのではない。ほかの日に伝えよ。今日は伝えないのがよい。王子が死んだのだから。」

ヨアブはクシュ人に言った。「行って、あなたの見たことを王に告げよ。」クシュ人はヨアブに礼をして、走り去った。



祭司の子として  
当然の願い



アブサロムの死は  
知っていた!!

## 【執拗な願い】 Ⅱ サムエル18:22～23

ツアドクの子アヒマアツは再びヨアブに言った。「どんなことがあっても、やはり私もクシュ人の後を追って走って行きたいのです。」ヨアブは言った。「わが子よ、なぜ、あなたは走って行きたいのか。知らせに対して、何のほうびも得られないのに。」

「しかし、どんなことがあっても、走って行きたいのです。」ヨアブは「走って行け」と言った。アヒマアツは低地への道を走って行き、クシュ人を追い越した。

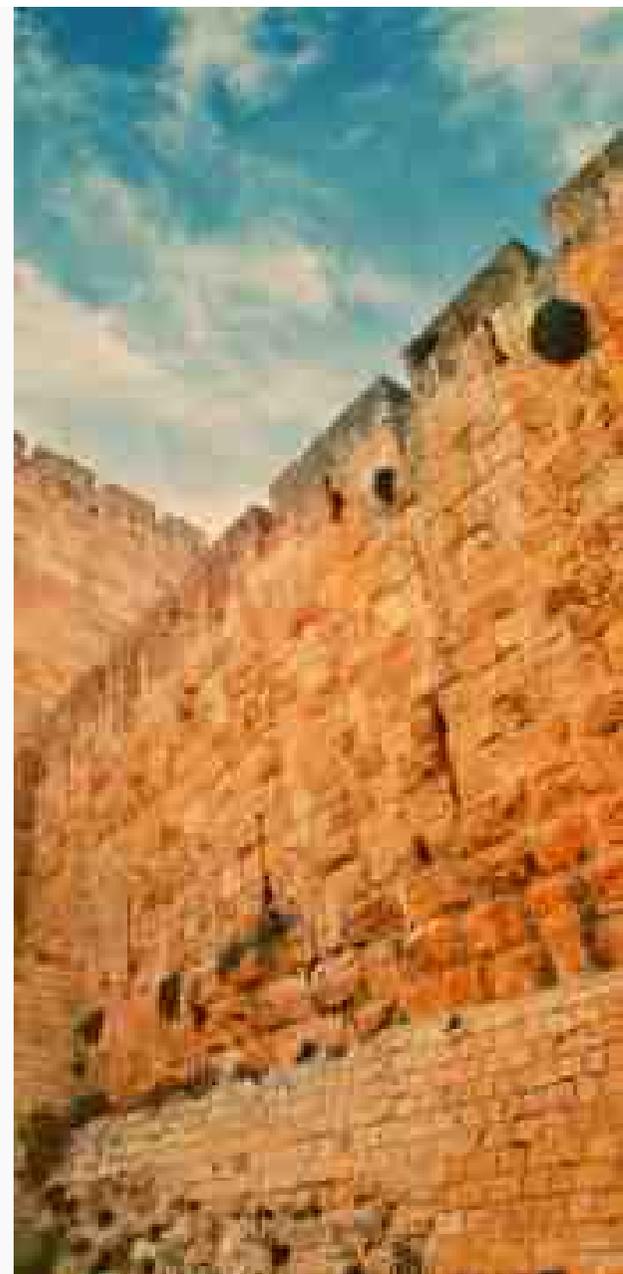


## 【知らせを待つダビデ】 II サムエル18:24～26

ダビデは外門と内門の間に座っていた。見張りが城壁の門の屋根に上り、目を上げて見ていると、見よ、ただ一人で走って来る男がいた。

見張りが王に大声で告げると、王は言った。「ただ一人なら、吉報だろう。」その者がしだいに近づいて来た。

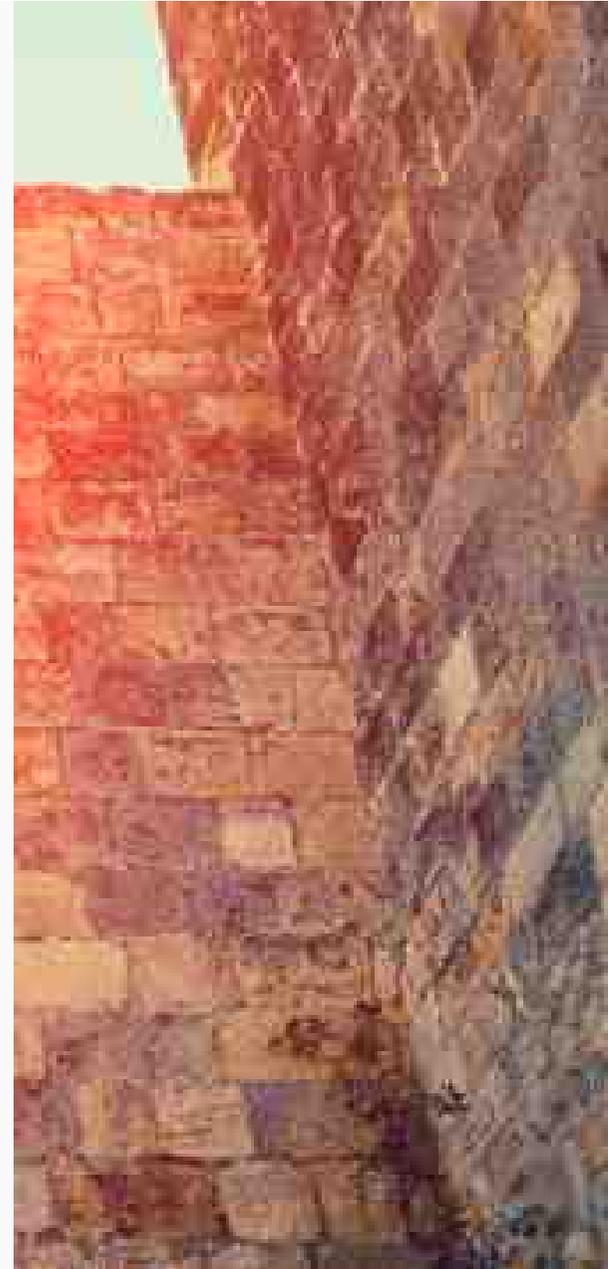
見張りは、別の男が走って来るのを見た。見張りは門衛に叫んだ。「あそこにも、一人で走って来る男がいる。」王は言った。「それも吉報を持って来ているのだろう。」



## 【アヒアマツの知らせ】 II サムエル18:27~28

見張りは言った。「最初の者の走り方は、ツアドクの子アヒマアツのもののように見えます。」  
王は言った。「あれは良い男だ。良い知らせを持って来るだろう。」

アヒマアツは王に「平安がありますように」と叫んで、地にひれ伏して、王に礼をした。彼は言った。「あなたの神、【主】がほめたたえられますように。主は、王様に手向かった者どもを引き渡してくださいました。」



## 【口をつぐむアヒマアツ】 II サムエル18:29～30

王は言った。「若者アブサロムは無事か。」

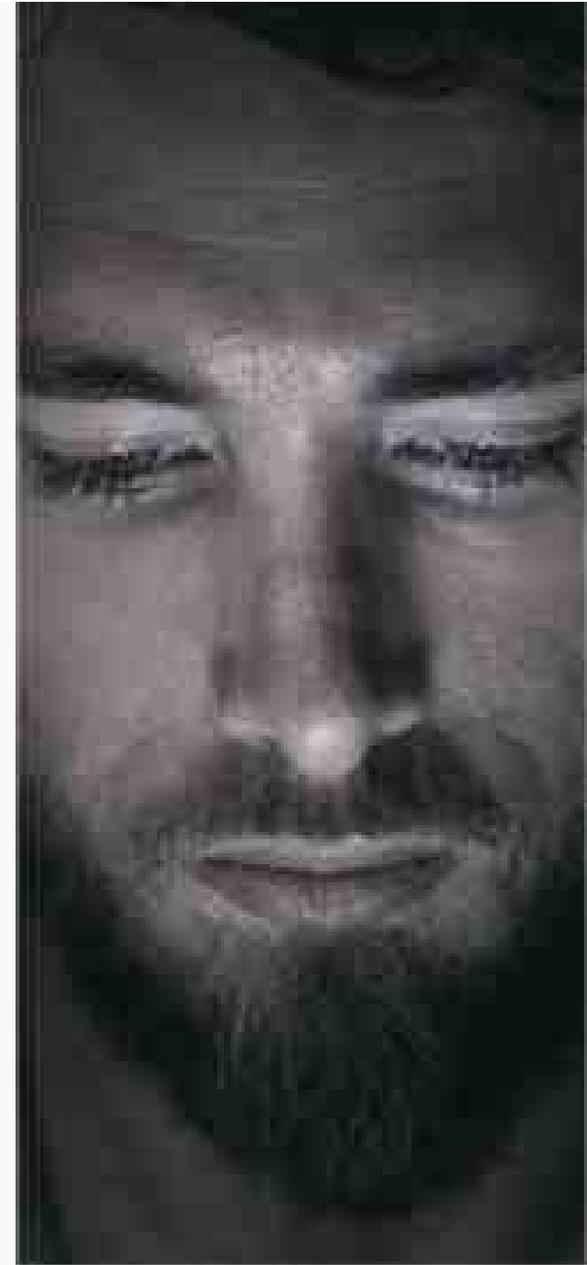
アヒマアツは言った。「ヨアブが王の家来であるこのしもべを遣わしたとき、何か大騒ぎが起こるのを見ましたが、私は何があったのか知りません\*。」

王は言った。「わきへ退いて、ここに立っていなさい。」彼はわきに退いて立っていた。

\*アブサロムの死は知っているアヒマアツ。

➡詳細は知らないという意味で言ったか？

➡いずれにしても、事実を告げなかった。

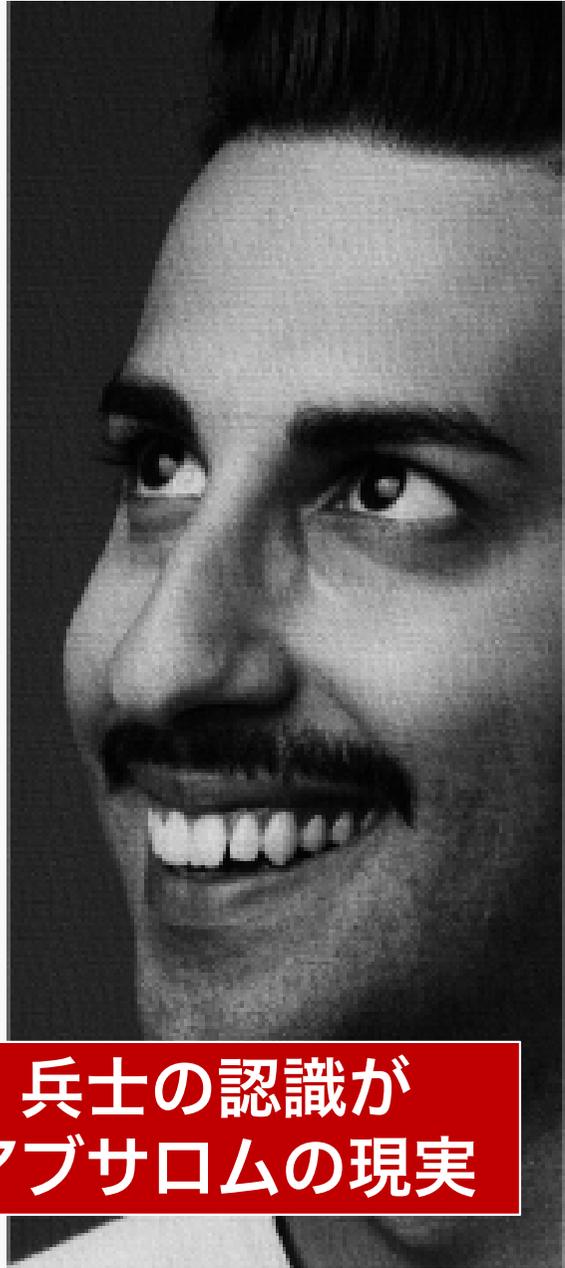


## 【クシュ人の報告】 II サムエル18:31

見ると、クシュ人がやって来て言った。「王様にお知らせいたします。【主】は、今日、あなた様に立ち向かうすべての者の手から、あなた様を救って、あなた様のために正しいさばきをされました。」

王はクシュ人に言った。「若者アブサロムは無事か。」クシュ人は言った。「王様の敵、あなた様に立ち向かって害を加えようとする者はみな、あの若者のようになりますように。」

- 「若者」という言葉に王が込めたのは、愛情。  
クシュ人の兵士が込めたのは、軽蔑。



兵士の認識が  
アブサロムの現実

## 【嘆き悲しむダビデ】 Ⅱ サムエル18:33

王は身を震わせ、門の屋上に上り、そこで泣いた。彼は泣きながら、こう言い続けた。「わが子アブサロム。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、私がおまえに代わって死ねばよかったのに。アブサロム。わが子よ、わが子よ。」

- 余りにも絶望的なアブサロムの死に、ダビデは、ひたすら嘆き悲しむしかなかっただろう。
- 死んだ者の弔いなど、誰にもできないことを思い知らされる。



### Ⅲ. まとめと適用

罪と死と神の裁きを心にとめよう  
見上げるべきはただ主の御顔



エルサレム近郊の夕景

## 【アブサロムの死の現実を見つめよう】

- 妹を犯され、息子たちと死別する悲劇があった。  
しかし、それが何の言い訳にもならない罪をアブサロムは重ねた。
- アブサロムが行ったのは、計画的に妹のかたきアムノンを殺害し、周到な準備の上に、父の王権を奪い取ること。
- 父の側女と寝て力を誇示し、圧倒的な戦力をもって、父ダビデと兵を壊滅させることを望んだ。
- 自らの美貌を誇ったが、その豊かな髪が彼の命を奪った。  
自らの記念として立てた柱は、彼の汚名を地に刻んだ。

## 【アブサロムの死から突きつけられること】

- アブサロム悲報に泣き叫ぶしかなかったダビデ。
  - ➔ バテ・シェバとの子が死んだ時、断食をやめたのとは対照的。  
ダビデは、アブサロムの死後に、何の確信も持てなかった。
- 人にとっての最悪とは、最愛の人が救いの確信なく死に至ること。
- 信仰者の死には、悲しみを越えた慰めがあり、喜びすらある。  
しかし、不信仰者の死には、永遠の滅びへの嘆きと悲しみしかない。
- 死がただ悲劇で終わらないために、一つの救いの道にかけよう。

## 【聖書が突きつける、死と滅びの否定し得ない現実】

- 何の救いも慰めもないアブサロムの死。それが人の死の現実。  
死は、人の罪の結果。罪の結末が、死。  
死は、永遠の神の目には、不自然で異常、あってはならないこと。
- エルサレムに、後代に建てられたアブサロムの墓がある。  
死の余りの悲惨さに、  
人は、それをなんとかして和らげようとあがいている。
- 死は、ただ死のままであれば、滅びでしかない。  
人は、ただ死ねば、永遠の滅びに落ちこんでいくだけ。

## 【死と滅びからの救いは、ただ主イエスだけにある】

- 死と滅びからの救いは、差し伸べられた手の憐れみの内にある。ダビデが重い罪を赦されたのは、ただ主の約束を信じたから。
- ダビデに約束されたメシアは来られ、救いの御業を完遂された。「主イエス・キリストは、私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。」
- 今も生きておられる主イエスだけが、人を死から救うことができる。神の変わらぬ約束だけが、永遠の滅びからの救いの確信を与える。

**死と滅びの現実の前に、ただ福音だけが私たちのすがれる救い**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、  
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、  
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、  
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。  
ただ、この福音(ふくいん)の上に 堅(かた)く立たせてください。  
死(し)と滅(ほろ)びの現実(げんじつ)は、  
否応(いやおう)なく 私たちの前にあります。  
救(すく)いはただ、主イエス・キリストにのみ あります。  
聖書(せいしょ)が指(さ)し示(しめ)す、ただ一つの救(すく)いの道、  
主イエスの真理(しんり)を学(まな)び取(と)り、  
主イエスの命(いのち)を得(え)ていくことができますように。  
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」